



木もれびの森の樹木 (31) モミジイチゴ (バラ科キイチゴ属)

4月、森の中には白い花が目につきます。1～2mの高さの茎を伸ばし、茎からほぼ直角に出ている細い棘があれば、それは木本^{もくほん}のモミジイチゴです。棘はとて多く、近づくのに苦労します。棘はからだや若い実を守る役目をしているのか、簡単には実を食べさせないぞという強い意志を感じます。



5弁の白色花を下向きに咲かせます。一花に複数のめしべを持っていますので、一つの花のあとに沢山の実ができ、イチゴの



場合はそれらの実が集まって、あの苺の一粒になります。私たちはたくさんの実を一口で食べていることになります。このような実を集合果と呼びます。夏になるとおいしい木苺が黄色に熟します。モミジイチゴは木苺の中で最もおいしいといわれます。

葉に切れ込みがありそれがモミジの葉に似ています。落葉低木で、冬芽は赤紫色で棘のある細い茎^{こせい}に互生し美しく輝いて春を待ちます。

同じ頃、似たような白い花を地面から20～60cmのところ^{せんもう}に咲かせているのは、クサイイチゴです。こちらは茎に棘の他に腺毛^{せんもう}が沢山ついています。クサイイチゴの実は赤く熟しますが、淡白な味がします。あなたも試してみませんか。(鳥飼)

畑地灌漑用水路近辺の植物

畑地灌漑用水路は戦後水の乏しい相模原台地で食糧増産のため、県営事業として昭和38年に完成しました。その後、食糧事情がよくなり用水路は都市化の波におされ十分機能しないうちに使われなくなったそうです。現在はそのほとんどが相模原緑道、緑地として整備されています。今回はこの緑道や水路に生育している草花を取り上げます。今まで考えたこともありませんでしたがどんな草花があるのか、これからおいおい調べながら掲載していきたいと思います。



現在、アメリカフウロウ・ハルジオン・ヒメジョオン・ヒメオドリコソウ・ノビル・ハコベ・カラスノエンドウなどを見ることができました。

左の写真のように当時の水路がそのまま残っています。水路の脇は緑道として整備されています。

健康維持(志向)を考える人が多く緑道や森の中を散歩する人達で賑わっています。

写真の右側は中央緑地。芝生の広場では、桜の時期に大勢の人がお花見をします。

ヒメオドリコソウ(姫踊り子草)・シソ科・2年草・丈ー10～15 cm

花期ー3～5月・ヨーロッパ原産(帰化植物)

ホトケノザに似ているが葉はこまかいしわが多くハート形で葉には柄(え)があり、枝先には赤紫色の葉が密集してつくのが特徴です。

同じシソ科にオドリコソウがあります、花がこれによく似ていて小さいので**姫**がつき**ヒメオドリコソウ**といわれる。

この植物は葉がうすよごれていて見栄えがよくないが、小さな花は可愛いですね。シソ科の花はどれもよく似ていて可愛い花が多いです。(田崎)



木もれびの森の虫たち

日本には名前がついている昆虫類が約3万種おり、その多くは森林に生息しているといわれています。木もれびの森に何種類の虫たちがいるのか分かりませんが、かなり・・・の虫たちが生息しており観察することが出来ます。虫たちは花粉の受粉を助けたり、病原菌を食べたり、種子を運んだり、野鳥などの餌になったり、落葉や枯木、動物の死骸を食べ分解し栄養素を土に還し土壌づくりに貢献したりして、健全で豊かな森をつくり、維持していくために重要な役割を担っています。

厳しい冬を乗り越え、これから虫たちも活発に動きはじめますが、木もれびの森で散策しながら撮影した虫たちをご紹介します。より親しみをもって、森の虫たちと接していただけたら幸いです。尚、虫の正確な同定が難しいものは類の表示に留めました。又、クモ、ハチ、チョウ・ガは次の機会にします。(海野)

4～5月撮影 場所：活動地A～E地区および中央緑地



マクラギヤスデ



ゴキブリ類



ヒゲジロハサミムシ



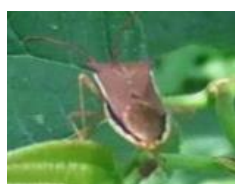
クチキムシ



ヒメグロオトシブミ



アオオサムシ



カメムシ類



キイロトラカミキリ



ヤマトシロアリ



アブラムシ塊



アカクビナガハムシ



オオヒラタシデムシ



ガガンボ類



ベッコウバエ



オオヨコバイ